科目名 Subject	着装技術Ⅱ Techniques of Kimono DressingⅡ		教員名	着装チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	実習	時間	60
実践的教育	○				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	○	◎
科目の概要	着装技術Ｉで学んだ技術と知識をベースに、プロの技術者＝「山野流着装奥伝講師・美容着付師」の資格取得を目的とし、老若男女、健常者、障害者を問わない技術・技能を修得します。実習では七五三、成人式振袖、婚礼列席者の装い等、美容サロンで需要の大きい実践技術を徹底して学ぶ他、ヘアメイクを含むトータルビューティの表現力を磨くことで、”人に着付ける”というプロの立場と”教えさせていただく”という指導者の立場を深く理解していきます。この職業実践専門課程の実施を通じ、美齢学を踏まえ社会に役立つ技術者として就職1年目から現場で貢献できる総合力が確実に習得できます。				
授業の目標	本科目の履修を通して、 ①就職一年目から美容技術の現場で評価される「美容着付師」の資格を取得する。 ②サロンワークをイメージした実践学習を重ね技術者とお客様の双方の立場を理解し、技術見識共に美容着付けのプロを意識したトータルビューティを表現できる出来るようになる。 ③学内外の国際的なイベントやボランティアに積極的に参加し、日本人として自国の文化や着物の知識を伝えたり授業で学んだ技術を実践することで、社会で活かせる経験を積み技術力を磨く。				
時間外学習 （予習・復習）	プロの着付師をイメージし技術のスキルアップと経験を積むための予習、復習を個人の学習課題とする。●技術者として社会の情報収集を欠かさず行い、自分の技術をリンクさせ見る目を養いながら、伝統文化の基本と時代に即した表現力を研究する。さらにSNSを常識的な範囲内で有効に使用し個人のアピールをする●美容着付師技能審査合格のために課題の練習を随時欠かさず行う。（30－40時間以上を要する）				
教科書・教材	教科書	山野流着装教伝			
	教材	着装技術Ｉの教材を使用。新たに必要な教材を課題ごとに配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル（保管は短大内）			
	参考文献	（一財）国際美容協会貯蔵			
評価方法	平常点３０％、実技試験５５％、筆記試験１０％、評価シート５％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	定期試験の要点について、掲示にて解説を行います。				
	社会で活用する視点で評価を行い、実践につながる技術に到達。				
履修上の注意	①社会的資格に通ずる授業の為接客マナー、出欠等社会人としての要素を重視。 ②美容着付師資格申請者は別途手続き有り。				
本科目履修と関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	オリエンテーション サロン技術の実践① 体型補正　帯結び：末広太鼓	冠婚葬祭の装いを理解できるようになる	通過儀礼の事前学習を要する（自分と着物の関わりを記録してくる）
第２回	助手の心得　喪服・夏の礼装	様々なシーンでの着物の常識を知り、サロンワークのシチュエーションでの技術ができるようになる	テキストを事前に一読してくる
第３回	サロン技術の実践② 七五三の女児・男児	七五三の意味を理解し、子供の着つけの特徴を学び実践ができるようになる	テキストを事前に一読してくる
第４回	付き添いの装い　色無地・訪問着	付き添いの母や祖母の装いとしての着つけと帯結びを理解できるようになる	テキストを事前に一読してくる
第５回	サロン技術の実践③ 振袖のきつけ①	サロン営業の主流となる振袖の着つけを通し着付師の心得を理解できるようになる	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第６回	振袖帯結び：花の舞	振袖に着つけと帯結びのプロセスを理解できるようになる	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第７回	サロン技術の実践④ 振袖のきつけ②	着付師の心を知り　適切な体型補正を行い着つけができるようになる	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第８回	振袖帯結び：ファンタジー	振袖にふさわしい帯結びのバランスが理解できるようになる	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第９回	サロン技術の実践⑤ 振袖のきつけ③	お客様の体型に合わせた着つけを行い、帯型を選択し技術ができるようになる	復習として帯型の模範と自分の作品との違いを確認する
第１０回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー　評価シート	仕上がりを評価シートにより自分の技術を確認できるようになる	評価シート判定に向けて技術予習が必要
第１１回	サロン技術の実践⑥ 振袖のきつけ④	着付師を意識し、スムーズな動きで着つけができるようになる	
第１２回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識し技術ができるようになる	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第１３回	サロン技術の実践⑦　振袖のきつけ⑤	着付師を意識し、着つけと帯結びができるようになる	
第１４回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識し技術ができるようになる	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第１５回	サロン技術の実践⑧ 振袖のきつけ⑥	着付師を意識し、決められた時間での着つけと帯結びができるようになる	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１６回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識し技術ができるようになる	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第１７回	サロン技術の実践⑨ 振袖のきつけ⑦	決められた時間に着つけと帯結びができるようになる	
第１８回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー　　評価シート	評価を通し、振袖と帯結びの技術が着付師のレベルに達した事を確認することができる	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第１９回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	技能審査に向けて、プロのレベルに達する事ができるようになる	技術自主学習（所要時間は90分程度）
第２０回	技術の確認 振袖のきつけと帯結び	決められた時間に着つけと帯結びができるようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第２１回	海外研修	海外研修旅行で短時間での着つけができるようになる	海外で着用する着物と帯の事前準備のため、着物が入るバックを持参する
第２２回	自装・他装　アイコー枕使用	早着せ、早着替えの工夫としてアイコー枕での帯結びができるようになる	テキストを見て事前学習をする
第２３回	サロン技術の実践⑪ 卒業式の装い	卒業式で装う女子の袴の着つけができるようになる	社会情報の収集を事前に行う
第２４回	女子の袴	袴のための着つけの特徴を理解し、袴の扱い方とたたみ方ができるようになる	袴のたたみ方を復習する
第２５回	サロン技術の実践⑫ 卒業式の装い	成人式、婚礼の男子の袴の着つけができるようになる	社会情報の収集を事前に行う
第２６回	男子の袴	女子袴との違い、着つけの特徴を理解し、袴のたたみ方ができるようになる	袴のたたみ方を復習する
第２７回	サロン技術の実践⑬ 振袖の着つけ	振袖の着つけと帯のバリエーションができるようになる	社会情報の収集を事前に行う
第２８回	帯のバリエーション 振袖帯結び：二枚扇	アイコー枕を使用し、振袖の着つけの自装ができるようになる	情報に応じた自分らしいスタイルを考えてくる
第２９回	知識の確認	日本人として老若男女を問わず美しい着つけと着物の知識を理解できるようになる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要
第３０回	式典での装い 礼装　振袖・男袴	資格取得の認定証授与式にむけて着つけの技術ができるようになる	自分の装いのコーディネイトを事前に準備し、場合によっては持参する